

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2770300917
法人名	医療法人 協仁会
事業所名	グループホームなごやか
訪問調査日	平成 21 年 1 月 22 日
評価確定日	平成 21 年 2 月 20 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2009年1月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2770300917
法人名	医療法人 協仁会
事業所名	グループホームなごやか
所在地	大阪府寝屋川市川勝町11番27号 (電話) 072-823-7667

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年1月22日	評価確定日	平成21年2月20日

【情報提供票より】(平成20年12月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 8 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	19 人	常勤 4 人, 非常勤 15 人, 常勤換算 16.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	4 階建ての	2 階 ~	4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有() 円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	700 円
	夕食	800 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月22日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名	
要介護1	3 名	要介護2	11 名			
要介護3	8 名	要介護4	5 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	84 歳	最低	57 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人協仁会小松病院 クリニックこまつ
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

総合病院を母体にした介護老人保健施設の運営をベースに認知症高齢者の個別ケアを目指して平成13年に開設した。訪問看護や通所介護事業所を併設し、終末期対応も視野に入れた医療面の対応が万全である。同時に、法人のさまざまな介護事業から得られた高齢者介護のノウハウが蓄積されて、事業所運営に活用されているのが特長である。病院と介護老人保健施設等と併設であるために外観的には家庭的雰囲気は期待できないが、建物内部はゆったりとレイアウトされて落ち着ける雰囲気となっている。職員は事業所の運営面でも、夫々が環境委員会、給食委員会、教育委員会のメンバーとして参画して、職員全体で認知症介護の改善課題に取り組んでいる。このような委員会組織が職員の育成にもつながっていると思われる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回サービス評価により設定した改善課題については、地域密着の方向の徹底や外出機会をできるだけ多くするなどについて、職員が中心となって各委員会で話し合いながら、改善に向けた取り組みが行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はユニットごとに課題を見出すべく職員が参加して行われた。自己評価でも新しい取り組み課題が提起されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1度開催し、内容が定着している。地域からの出席者も地域福祉を推進している校区福祉委員がメンバーとして加わっているために、事業所と地域福祉との連携が取りやすい運用となっている。運営推進会議の場で事業者から地域への情報発信も期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族への報告や、家族からの要望、意見への対応については事業所は積極的に取り組んでいる。年2回の家族会での意見交換や苦情・相談ごとのフォローも丁寧に行われている。議事録を取り職員に徹底している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の老人会の集会や行事に積極的に参加するようにしている。事業所の行事には地域にも案内して参加を呼びかけている。地元中学校の福祉体験実習では生徒達が一週間ほど利用者として過ごすことも地域連携のひとつである。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の基本理念で「家庭や地域に開かれた施設」を掲げて、地域に根ざした事業所運営を目指したものになっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人病院の設立趣旨が地域医療のための住民本位を謳って開設しているので、グループとして職員への徹底も折に触れて行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会の集会に参加することや、ホームの行事に自治会、老人会を招くことで交流を深めている。中学校の福祉体験学習の実習生の受入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットごとに自己評価を行って、課題の発見に努めている。職員による個別委員会やスタッフ会議を活用したサービス評価のフォローができています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の自治会から福祉担当の委員が出席して、2ヶ月に1度開催している。事業所と地域の情報交流の場として活用されているが、認知症介護について、事業所からの情報発信を多くしても良いかと思う。	○	職員は環境・給食・教育という各委員会を作って認知症の利用者に対する介護レベルの向上に取り組んでいるので、委員会の活動内容を運営推進会議の場でも報告されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の介護事業運営組織が窓口となって市の担当部門との情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には利用者の健康状態や最近の暮らしぶりをできるだけ詳しく報告するように努めている。事業所からの報告状況については家族も高い満足度を表している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年間2回家族会議を開いている。できるだけ多くの家族が参加するように行事を企画し、そのあとに家族会議を開いて、家族の要望や意見を聞く場としている。議事録からは率直な家族からの発言が伺える。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットごとに職員を固定した利用者とのなじみの関係が保てる勤務体制を取っている。やむを得ず異動がある場合は職員がフロア会議等で対応を相談するように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修カリキュラムや社外研修を積極的に活用して職員育成に努めている。環境・給食・教育の委員会制度も職員育成に役立っているように感じる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターのネットワーク会議に参加して、同業者との情報交換に努めている。機会を見つけては、他の事業所から学ぶ姿勢が伺える。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所の段階では体験入居を勧めている。新しい生活の場所として本人が納得してスタートできるように支援している。職員は本人が、他の利用者とも少しずつ馴染むように気を配っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に生活するという気持ちを大切にしながら、家事を共同で行い、食事中も利用者と一緒に談笑するなど、暮らしのパートナーとしての支援を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人が新しい事業所での生活について、どのような過ごし方をしたいかを職員がしっかり把握するように努め、申し送りを徹底して、利用者の希望に沿うように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の要望を聞き、医師や関係者の意見を参考にし、本人の暮らし方への希望を踏まえて、介護計画を作成し、支援課題や目標を設定している。家族訪問時に介護計画の内容を説明して同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者ごとに担当職員を決め、3ヶ月に1度家族の意見を聞いて介護計画の見直しを行っている。フロア会議やミニカンファレンスで職員間で情報交換をして、利用者の変化を見落とさないように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況や要望に配慮して、事業所だけでなく他の介護サービス事業を含めた、法人として相談に乗ったり、柔軟な対応に心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の病院の医師をほとんどの利用者がかかりつけ医としている。訪問看護ステーションも併設されたおり、医療支援の面では家族の評価も高い。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員はターミナルへの対応経験もあり、かかりつけ医との連携も十分である。重度・終末期の家族と医師および職員の対応方針の共有化はできている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の声かけや利用者への接し方は、本人のプライドに配慮した対応になっていた。法人の学習会でも接遇をテーマにした取り組みを行っている。個人情報の扱いも徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課は決められているが、職員は利用者の暮らしのリズムを優先した対応を行っている。本人の体調や気分配慮しながらの支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材業者から材料を仕入れているが、調理の準備や片付けはできるだけ利用者も参加するように配慮している。月に一度は季節に合ったおやつ作りを皆で楽しむようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望を優先した入浴対応を行っているが、出来るだけ入浴間隔が空かないように配慮をしている。浴室は広く職員の介助スペースも十分確保されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の能力を活かしながら、日常の家事を中心とした夫々の役割で、生きる活力が出るように配慮をしている。将棋などのボランティアの活用も行っている。生け花やオカリナ演奏などを行事に入れて生活に変化をもたせる工夫をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ戸外に出る機会が持てるように努めている。家事としてのゴミ出しや簡単な散歩の声かけを行っている。散歩ボランティアの協力も得ている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の立地環境や構造上困難な面もあり、1階の玄関は施錠している。各フロアの昇降は専用エレベーターである。職員はできるだけ閉塞感がないように気をつけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練はおこなっているが、近くでボヤが発生した例もあり、グループとしての災害対策に力を入れているところである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量は毎食後記録されている。調理方法などは個別の健康状況に応じた対応がされている。口腔ケアには声かけ、見守り、介助を毎食後に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内の各場所(食堂兼居間、廊下・浴室・トイレ等)はスペースにも余裕があり、清潔に保たれて快適に過ごせる雰囲気がある。広い廊下にはソファや椅子が用意され、利用者の居場所が確保されている。季節を感じさせる飾りや草花も適度に配置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談して手すりを取り付けた部屋など安全にも気を配っている。仏壇や使い慣れた物を用意して、本人が落ち着いて過ごせるように、入居の際に家族に協力をお願いしている。		